

4/6 早朝

論説

2022・4・6

那覇市の米軍那覇総合施設（那
場軍港）での報道取扱いを施設外か
に取材したことのある地元紙・
琉球新報の眞眞記者、米兵が銃
口を向けた=眞眞 図紙提供



報道の自由への威嚇だ

記者に銃口

副総中士はこの施設外の質問人に銃口を向けるが如きは到底許せぬ。記者と報道してこられたない報道の自由への意図的な威嚇にはかならぬ。日本安全保障体制の国際性をも揺るがしかねない事態だ。政府は真摯謝罪と再発防止を、米側で強く申入れるべきである。

琉球新報の報道によれば、三月三十日夕、記者が訓練の行われた倉庫の正面で取材中、意図から出てきた兵士一人が銃を構えた。記者と面が合ひ、銃口を向けたまま数時間、静止したところ、米側が、撮影場所と訓練場所とは約二回五十㍍離れていたことから「武器は記者に向けられたものではない」「兵士は銃を持ったまま、体を正面に回転させる標的的な警備を実施している」「兵士は照準器をのぞいておらず、弾薬は入りこながりだ」などと日本側に説明したといふ。

しかし、たゞ大訓練で弾薬を入れてこなかつたとしても銃口を向けたない、報道の自由を保障する日本憲法の精神が挑戦されるのである。やがて報道の自由を奪はれた記者を敵視し、恐怖を煽るのではなくはない。

理屈で争うのではなく、日本政府の対応だ。沖縄基地負担軽減担当相を兼ねる松野博一官房長官は米側の説明を理解するやうで、「問題の重大性を認識」し真相を徹底解明しながむのを強調はめられた。沖縄では、日本企業や日本地元に報道を遮断した華南総合報道機関が、米軍の報道規制の権限を奪いつぶつて、その権限を行使するやうで、問題の重大性を認識して、眞相を徹底解明しながむのを強調はめられた。

しかし、ロシア国内で、政権は批判的なメディアに対する報道規制を行つた。これが米軍の報道が統けられず、米軍への報道が低下し、機関不全を招くかねない。

ついで、ロシアが報道規制に統口を向けた。米兵を放逐するよりなり、ロシアを批判する報道があるが。